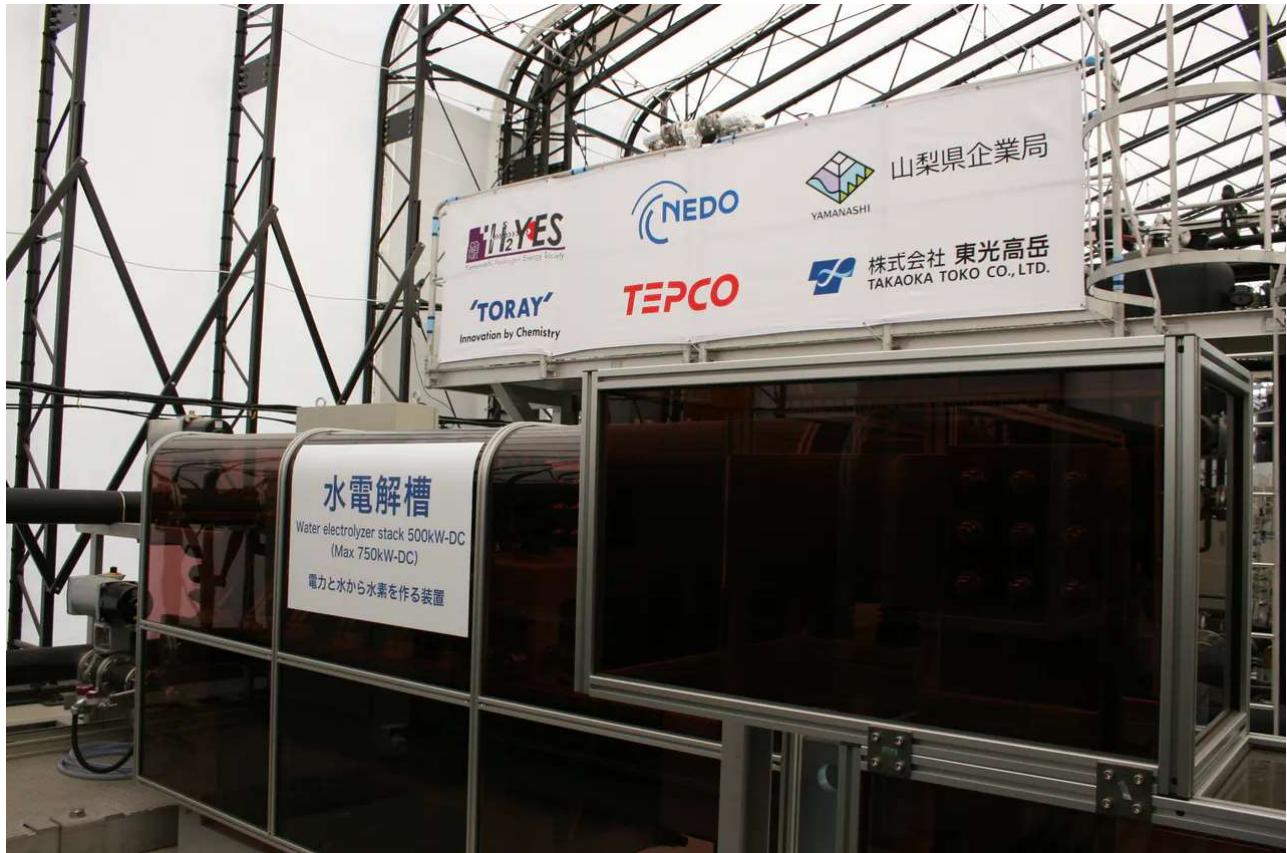


# 東電、工場向けに水素を供給 山梨県・東レと実験

2021/6/7 15:53 | 日本経済新聞 電子版



東電などが手掛ける電力と水から水素を作る装置

東京電力ホールディングスは7日、山梨県と東レと連携し、甲府市で水素を製造して工場やスーパー・マーケットに供給する実証実験を始めると発表した。同日から秋ごろまで試運転に取り組み、年内に実験の規模を拡大する。製造してから使うまでのサプライチェーンを構築し、水素にとって課題となっているコストを下げられるか検証する。

東電などは新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託事業として共同で技術開発を進めてきた。甲府市米倉山にある拠点に大型の水電解装置を設置し、水道水で水素を製造する。秋までに1時間あたり300N立方メートル（ノルマルリューベー標準状態での気体の体積）、年内には年間45万N立方メートルの製造を見込む。

国内ではNEDOや東芝エネルギー・システムズなどが福島県浪江町に水素を製造する巨大施設を完成させた。東電などの甲府市の水素拠点は国内では福島県に次ぐ2番目の規模だという。東電などは水素の価格を現状の1N立方メートルあたり100円程度から数年後までに60円程度まで下げたい考えだ。将来は30円程度をめざす。